

学内インフォメーションボードをデジタルサイネージに一新。デジタルのメリットを活かし、多彩なコンテンツを効果的に配信

お客様のニーズ・課題

10年前に構築したアナログ配信システムによる学内インフォメーションボードが老朽化し、多彩なコンテンツを配信できるデジタルでのリニューアルを決定。

導入効果

アナログ配信時に比べ、文字情報や動画、静止画、Web、音声などを自在に組み合わせたコンテンツを配信できる。効率的な運用が可能となった。



学校法人明治大学様

明治大学は、近代国家としての自立が急務とされる1881年に、「わが国の近代市民社会を担う聡明な若者を育てたい」という3人の青年法律家の熱い想いにより、明治法律学校として創立されました。現在では、9学部および大学院9研究科に加え、教育・研究のための付属機関や施設、付属高等学校・中学校を擁する日本屈指の総合大学として発展しました。駿河台校舎、和泉校舎、生田校舎の3つの各キャンパスには、優れた教授陣に加え、教育・研究や課外活動のための最新施設が整備されています。大学本拠地である駿河台キャンパスには、明治大学創立120周年記念館である「リバティタワー」や知を発信する生涯教育の拠点「アカデミー・コモン」が、大学の新しいシンボルとしてそびえています。

学校法人明治大学 法学部教授 阪井 和男様（前情報基盤本部長）と、財務・資産管理部 資産管理課 システム管理グループ 矢崎 俊彦様にお話を伺いました。

導入背景

機器老朽化に伴い、学内インフォメーションボードをデジタルへ移行。

当大学では、1998年のリバティタワー建設時に、学内インフォメーションボードシステムを構築しました。これは、テレビの共聴設備を利用したアナログ配信システムで、学生への事務通達やイベント案内、大学広報などを主に文字情報で表示します。入学式や卒業式、スポーツの対外試合などの風景を録画し、ビデオ配信なども行いました。このアナログシステムも、構築から運用、保守も含めてソニーさんに担当していただいたものです。

しかし、構築から約10年が経過し、機器が老朽化してリニューアルの時期を迎えていました。そこで、全キャンパスへの配信・運用管理や機器監視など、柔軟かつ高度なコンテンツマネジメント環境を目指して、学内インフォメーションボード配信システムを一新することになりました。（阪井教授）



リバティタワーの1階には、タッチパネル方式の施設案内ボードを設置。

選定理由

多彩なコンテンツを効果的に配信できるデジタルサイネージを評価。

2005年に、ソニーさんからデジタルサイネージによる情報配信を提案いただき、学内の一部でパイロット導入を行いました。アナログ配信時に比べて多彩なコンテンツを配信できること、効率的な運用が可能であることを評価し、全システムのデジタル化が決定しました。アナログ配信システム構築時からの実績や信頼、総合的な技術力を評価して、新システムにおいてもソニーさんに構築を依頼しました。（矢崎様）

新たな学内インフォメーションボードシステムに採用したのは、ネットワークを利用して情報発信を行うデジタルサイネージプレーヤーVSP-NS7です。新システムを構築するにあたり、既存ディスプレイの設置場所や活用状況などの洗い出しを行いました。コンテンツの見直しや活用方法の再考などを合わせて行った結果、大学共通の情報や学内イベントなどを表示する「情報掲示用」、休講情報や教室・時間割変更、学生呼出など学部独自の情報を表示する「学部情報用」、施設案内や学外の方を対象としたイベント情報などを表示する「広報用」の3分野にコンテンツを分けて配信することになり、最終的に3キャンパス全体で98台を設置することにしました。（阪井教授）



図書館では、ディスプレイの光が利用者の迷惑とならないよう、設置場所に配慮した。

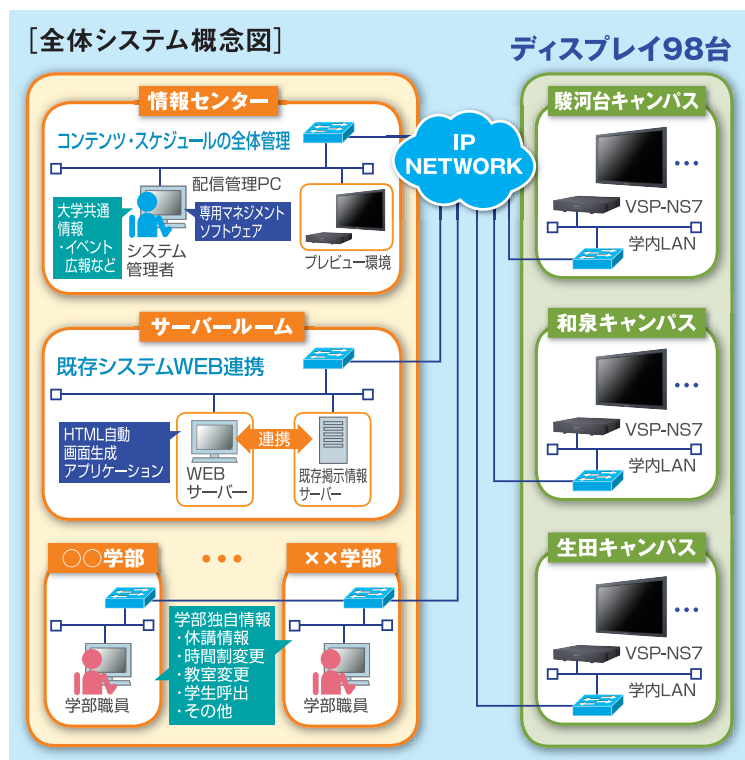
導入効果

既存システムを包括し、情報センターで全キャンパスへの配信を一元化。

デジタルサイネージシステムは、画面上に文字情報や動画、静止画、Web、音声コンテンツなどを自在に組み合わせることが出来るため、デジタルコンテンツのメリットを最大限に生かした効果的なメッセージの表示が可能です。また、当大学の既存Webシステムをデジタルサイネージに表示できるよう、連携ソフトウェアを開発し、従来の運用を変えることなく、デジタルサイネージ上でのWeb情報配信を実現しています。一方、運用管理面では、駿河台キャンパス内に情報センターを設け、3キャンパスへの配信、機器監視を一元管理しています。VSP-NS7専用モニタリングソフトVSPA-M7の持つステータス監視機能により、各機の状態や電源のオンオフを確認し、長期間にわたるディスプレイの非表示状態を防いでいます。専任スタッフがシステムおよびコンテンツの担当として情報センターへ常駐し、コンテンツの作成・運用および、機器の監視を担当していることも心強く感じています。(矢崎様)



リフレッシュスペースや食堂、エスカレーター前などにも情報を表示。



今後の展望

コンテンツ内容の向上とともに、さらに柔軟な配信環境に拡張予定。

人目につくインフォメーションボードは、大学の顔ともいえるべき存在です。新システムでコンテンツの内容や品質が向上すれば、大学のイメージアップにもつながります。今後は各学部の事務所からイベント情報を直接配信できるようにするなど、さらにシステムを拡張していく予定です。(矢崎様)

リバティタワーは10年前の竣工時にシステム構想を練り、最も理想的な形で情報基盤を整備しました。ベースの部分が整っていたので、今回のような大規模なシステムも比較的スムーズに構築できました。ソニーさんのご協力で、大学の既存システムを活用できたことを評価しています。引き続き支援を期待しています。(阪井教授)



学部単位でインフォメーションボードを分け、それぞれに必要な情報を配信する。

パブリックディスプレイの商品情報をご覧ください。
sony.jp/public-display/

ソニーマーケティング株式会社 / 〒108-0074 東京都港区高輪4-10-18

商品に関するお問い合わせは

業務用商品相談窓口

フリーダイヤル ☎ 0120-788-333

●携帯電話・PHS・一部のIP電話からは 0466-31-2588

●FAX 0120-333-389

●受付時間 9:00～18:00 (土・日・祝日、および年末年始は除く)

2008年9月現在